



## 令和3年度学術委員会学術第4小委員会報告

# 病院薬剤師業務のタスク・シフト/シェアの推進および病院薬剤師の労働環境改善に資する研究

委員長

山形大学医学部附属病院薬剤部

志田 敏宏 Toshihiro SHIDA

委員

北海道大学病院薬剤部

熊井 正貴 Masayoshi KUMAI

昭和大学病院薬剤部

縄田 修一 Shuichi NAWATA

仙台循環器病センター薬剤部

千葉 貴志 Takashi CHIBA

鹿児島大学病院薬剤部

深水 知英 Tomohide FUKAMIZU

済生会横浜市東部病院薬剤部

永瀬 怜司 Satoshi NAGASE

鳥取大学医学部附属病院薬剤部

森木 邦明 Kuniaki MORIKI

### はじめに

全国的に慢性的な病院薬剤師不足および偏在化が続く中、2019年4月2日の「調剤業務のあり方について」(薬生総発0402第1号：以下、0402通知)の通知にて、薬剤師が調剤に最終的な責任を有するというを前提として、薬剤師以外の者に実施させることが可能な業務の基本的考え方が示された。これにより、従来まで薬剤師の対物業務であった調剤業務について、薬剤師以外の者や調剤機器を活用し、業務を効率化することで、薬剤師の対人業務の充実が求められている。

また、働き方改革関連法の制定は、長時間労働や人員不足をはじめとした医療従事者が抱える労働環境の問題を見直す大きなきっかけとなった。しかし、医師からのタスク・シフトを実現するため、高度かつ幅広い知識や技能が求められ、各職種の業務量は増大している。そのため、適切な労働環境を提供し医療の質を向上させるためには、既存業務の効率化、業務の機械化や薬剤師業務のタスク・シフトが必要である。そこで、より確実な課題解決および「薬剤師のタスク・シフト」および「対物業務から対人業務への構造転換」を推進することで、効率的および安全な業務遂行と対人業務を充実させることを目的に当委員会が発足された。

薬剤師業務のタスク・シフトの実践は、薬剤師の対人業務を充実させ、医師の薬物療法に関するタスク・シフトに繋がり、効率的で安全な薬物療法を患者に提供できると考えられる。しかし、業務のタスク・シフトは、薬剤師が最終的な責任を有することが前提であり、安易なタスク・シフトは法に触れる可能性があるため、組織内

統制の確保並びに法令遵守体制の整備が求められる。しかし、薬剤師以外の者の採用状況や業務実態並びにその課題などに関する報告はなく、不明確である。当委員会の令和2年度の活動では、機械による調剤または注射剤調製を含めた、薬剤師以外の者の業務内容の実態を全国調査で明らかにし、令和3年度に論文として報告した。さらに、薬剤師以外の者の業務の効果について、解析を進めたため報告する。

### 薬剤部門に所属している薬剤師以外の者の業務実態に関するアンケート調査結果

薬剤師のタスク・シフト/シェアについて本邦で調査した報告はなく、本調査が病院における薬剤師以外の者の雇用状況や業務内容等を調査した初めての報告となる。調査は日本病院薬剤師会に所属する施設を対象に、令和2年12月～令和3年1月末にかけて実施し、web(Googleフォーム)にて回答を収集した。306施設の回答について解析したところ、調剤補助等の薬剤部内業務を行っている薬剤師以外の者は244施設(79.7%)で採用されていた(表)。採用施設のうち、研修を実施しているのは76施設(31.1%)であった。また、調剤関連業務に薬剤師以外の者を従事させている施設は223施設(91.4%)あり、そのうち業務手順書を作成しているのは121施設(54.3%)であった。0402通知においては、薬剤師の指示の下で医薬品を取り揃える行為が可能であることが明記されているが、薬剤師以外の者の業務として医薬品の取り揃えに関連する業務は45.9～59.8%にとどまった。薬剤師以外の者の業務について日本病院薬剤師会に期待することとして、業務手順書の作成や教育・

表 病床数帯ごとの基本情報概要並びに薬剤部門に所属している薬剤師以外の者の雇用状況

	全体	病床数		
		300床未満	300床以上600床未満	600床以上
1) 基本情報概要				
回答施設数	306	169	104	33
病床数 (床)	267.5 (20-1,275)	172 (20-297)	391 (300-574)	700 (600-1,275)
常勤薬剤師数 (名)	8 (1-94)	4 (1-22)	17 (1-49)	49 (26-94)
処方箋枚数				
入院処方 (枚)	2,438 (16-21,359)	1,333 (16-8,660)	4,503 (80-21,129)	11,903 (6,378-21,359)
外来院内処方 (枚)	333 (0-23,903)	175 (0-7,338)	491 (1-10,279)	941 (305-23,903)
薬剤管理指導件数				
指導料 1 (件)	118.5 (0-1,566)	41 (0-605)	288 (0-833)	588 (88-1,566)
指導料 2 (件)	129 (0-2,022)	34 (0-828)	357 (0-1,234)	911 (84-2,022)
2) 薬剤部門に所属している薬剤師以外の者の採用状況				
非薬剤師				
調剤補助等を行う者				
採用施設数	244 [79.7]	128 [75.7]	88 [84.6]	28 [84.8]
採用人数 (名)	2 (0.5-14)	2.0 (0.5-6)	3.0 (1-9)	6.5 (1-14)
研修実施施設数	76 [31.1]	36 [28.1]	29 [33.0]	11 [39.3]
手順書準備施設数	133 [54.5]	69 [53.9]	44 [50.0]	20 [71.4]
事務作業等を行う者				
採用施設数	117 [38.2]	51 [30.2]	45 [43.3]	21 [63.6]
採用人数 (名)	1 (0-9)	1 (0-7)	1 (0-4)	2 (1-9)
SPD				
導入施設数	72 [23.5]	28 [16.6]	25 [24.0]	19 [57.6]
採用人数 (名)	3 (0-30)	1 (0-5)	4 (0-12)	11 (1-30)

研修実施施設数および手順書準備施設数は施設数 [割合, %], 左記以外の連続変数は中央値 (最小値-最大値) で表記

<文献1) より一部改変して抜粋>

研修を要望する回答が上位を占めた<sup>1)</sup>。

### 薬剤師からのタスク・シフトの効果

薬剤師以外の者や調剤機器類の導入が薬剤師業務にどのように薬剤師の対人業務に寄与するかを、昨年度調査した薬剤管理指導加算件数および病棟薬剤業務実施の有無を指標として再度解析した。本データは学会発表または論文として発表を予定しているため、結果の概要を報告する。

薬剤師以外の者の採用が、薬剤師以外の者と病棟薬剤業務実施加算の算定や薬剤管理指導件数に明らかな傾向は認められず、対人業務の増加に繋がっているとは言い難い結果であった。調剤関連機器の導入に関しては、薬剤師1人当たりの処方箋枚数が増加している傾向があり、業務効率化に寄与している可能性が考えられた。

薬剤師業務が拡大している一方で、多くの施設で薬剤師が不足していると答えている。今回の解析結果からは、対人業務が十分に行われていない施設ほど不足している薬剤師の業務を補填するために薬剤師以外の者へのタス

ク・シフトが進んでいるが、対人業務への拡大には結びついておらず、薬剤師数が多い施設でも業務拡大のためのタスク・シフトが十分進んでいないことが考えられる。

### 今後の活動について

医師から薬剤師へのタスク・シフト/シェアを推進、および、病院薬剤師の労働環境改善のため、薬剤師以外の者へのタスク・シフト/シェアの推進が必要であることは明らかであり、今後は現実的かつ実行可能な対策が必要になる。当委員会では、病院規模や病院機能ごとの詳細な解析を進めるとともに、薬剤師から薬剤師以外の者へのタスク・シフト事例を収集するため、さらなる調査を検討している。

### 引用文献

- 1) 森木邦明, 永瀬怜司, 千葉貴志, 縄田修一, 熊井正貴, 深水知英, 志田敏宏: 薬剤部門に所属している薬剤師以外の者の業務実態に関するアンケート調査結果, 日本病院薬剤師会雑誌, 58, 739-745 (2022).